

Title	明治初期經濟史研究(慶應義塾經濟史學會, 紀要第一冊)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.16, No.4 (1938. 4) ,p.206(704)- 206(704)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0206

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

明治初期經濟史研究（紀要第一冊）

世界近世史上に於て最も急速な文化的發展を遂げたのは一八七一年統一完成以後の獨逸と明治維新以後の我が日本とであらう。

然し徳川時代二百數十年が鎖國主義を墨守した保守退歩の時代であつただけに、明治時代の發展は獨逸のそれより一段と目覺ましいものがあつたやうに思はれる。實に我國は明治維新以後殆ど反動的な進取主義を振り翳し、政治、經濟、教育、軍備その他に於て全く飛躍的な大發展を遂げた。それは文化百般の建設の時期であり、新日本誕生の晨旦であつた。現代日本の政治も産業も凡てこの時代に基盤づけられ、今日世界に雄飛する我國の地位もこの時期に漸次築き上げられて來た。されば現代日本の政治、外交、產業に對する深い理解は當然明治初期の研究に出發せねばならぬ。而して現在明治維新を去る七十年、明治史は既に現代史の域を脱し、眞に客觀的に研究し得るべき時代となつた。慶應義塾經濟史學會同人諸氏は、過去三年餘に亘つて此の時代の經濟史研究に努力を傾け、その業蹟亦刮目して見るべきものあり、その銳意研鑽に成る珠玉篇十四を收録し、「明治初期經濟史研究」の表題を附して紀要第一冊を二部に分つて刊行した。先づ第一部の卷頭には野村教授の「明治初期經濟史觀」を掲げて該時代に對する一般的理解に資し、以下經濟史の各部門に亘る研究論文が收められてゐる。即ちその農業方面に關するものには小池氏の「明治初期に於ける農業技術の發達」、三邊氏の「明治初期に於ける我國棉

花生產の凋落—本邦紡績業發達史への序論—」があり、工業方面に關するものには伊東氏の「我國に於ける軍事工業の成立過程」、山田氏の「明治初期の化學工業」、小島氏の「明治初期の本邦印刷業に就いて—主として東京市に於ける印刷業を中心にして」(以上第一部所收)等があり、財政金融、保險の諸方面に關するものには大島氏の「明治初期の財政」(第一部所收)、伊東彌之助氏の「通商政策に於ける爲替會社」、松本氏の「日本銀行の成立過程」及び園氏の「我國に於ける生命保險事業の創生—若山儀一氏を中心として見たる」等があり、又交通方面に關しては三井氏の「明治初期交通制度の文化史的考察」があり、新聞事業に關しては西田氏の「明治初期新聞發達史概說」があり、更に思想方面に關しては下田氏の「維新前後外國貿易論」及び上坂氏の「明治初期佛教」(以上第二部所收)がある。更に第一部の卷頭には數葉の口繪を掲げ貴重な經濟史料を展示し、それに懇切なる解説が附せられてゐることも専却してはならぬ。以上の諸論文には勿論一貫した統一はないが、その一つ一つが苦心研究の結晶であり、これ等の一つ一つを熟讀玩味することに依つて必ずや明治初期の經濟活動の本體を把握し得べきを信ずるものである。今後更に同人諸氏の研究の成果が次々に發表せらるべきを期待し、同會の發展を祈る次第である。(巖松堂發行) (有賀春雄)

先史地理學研究（小牧實繁著）